

# 北見工業大学学報

第 292 号 (2019 年 3 月号)

## 目 次

学位記授与式	平成 30 年度学位記授与式を举行……………	3
告 辞	平成 30 年度学位記授与式告辞……………	5
入 試	平成 31 年度大学院入学試験(第 2 回)を実施……………	7
	平成 31 年度工学部一般入試を実施……………	8
研 究 助 成	平成 30 年度共同研究の受入状況……………	9
	平成 30 年度受託研究の受入状況……………	10
	平成 30 年度奨学寄附金の受入状況……………	11
人 事	人事異動……………	12
受 賞	本学学生が化学系学協会北海道支部 2019 年冬季研究発表会で優秀講演賞を受賞……………	16
	本学大学院生が化学系学協会北海道支部 2019 年冬季研究発表会で優秀講演賞を受賞……………	17
	地域未来デザイン工学科 澁谷隆俊特任助教が 日本天文学会研究奨励賞を受賞……………	18
	技術部 山根美佐雄室長が日本金属学会 第 50 回研究技術功労賞を受賞……………	19
諸 報	慶尚大学校工科大学(韓国)との短期交流研修を実施……………	20
	社会貢献プログラムを実施……………	22
	第 34 回北方圏国際シンポジウムに参加……………	23
	平成 30 年度就職イベントを開催……………	24
	北見市教育委員会「土曜学校」事業への協力……………	25
	メンタルヘルス研修を実施……………	26

	個人情報保護研修を実施……………	27
	学生表彰式を挙……………	28
	事務職員のための講演会を実施……………	30
	オホーツク医学大会・北見医工連賞授賞式……………	31
	平成30年度工学連携推進型地域6次産業人材育成事業修了式……………	32
	地域講演会「雪と氷のサイエンス」を実施……………	33
目 誌	2月・3月……………	34

## = 学位記授与式 =

### 平成 30 年度学位記授与式を挙行

(総務課)

3月18日(月)、平成30年度学位記授与式が午前10時から北見市民会館で行われました。

学部366人の卒業生、大学院工学研究科博士前期課程98人、同博士後期課程6人の修了生及び論文博士1人に対し、鈴木聡一郎学長から学位記が授与されました。

また、本学が加入しているスーパー連携大学院コンソーシアムからイノベーション修士サーティフィケートが1人に授与されました。引き続き、学長告辞、辻直孝北見

市長、永田正記後援会会長、鳥越廣美同窓会会長及び富田剛夫学生後援会会長からの祝辞の後、マテリアル工学科の伊藤有澄さんが、「本学での講義や研究を通して得られた知識や、人との関わりによって得られた経験は、私たちの人生において、かけがえのない大きな財産となったと心から感じています。」と答辞を読み上げ、式は無事終了しました。

卒業生、修了生の人数は下表のとおりです。

#### 学 部

学 科 名	卒業生数(人)
機械工学科	72
社会環境工学科	80
電気電子工学科	62
情報システム工学科	61
バイオ環境化学科	38
マテリアル工学科	53
合 計	366

#### 大学院工学研究科博士前期課程

専 攻 名	修了者数(人)
機械工学専攻	17
社会環境工学専攻	19
電気電子工学専攻	14
情報システム工学専攻	15
バイオ環境化学専攻	15
マテリアル工学専攻	18
合 計	98

大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	修了者数(人)
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	4
医療工学専攻	2
合計	6



学位記授与式の様子

## = 告辞 =

### 平成 30 年度学位記授与式告辞

学部卒業、ならびに大学院修了の皆様、学位取得誠におめでとうございます。

在学中の皆さんの努力が実り、本日学位記を授与されましたこと、北見工業大学の教職員を代表いたしましてお祝い申し上げます。

また、本日はご多用の中、北見市長の辻様、大学後援会会長の永田様、同窓会会長の鳥越様、学生後援会会長の富田様にご臨席を賜り、学位記授与式を挙行できますことに感謝申し上げます。

さらに本会場には、卒業ならびに修了生のご家族・ご親戚の皆様にも多数ご出席いただいております。この場をお借りしまして、これまでの本学へのご支援、ご協力に感謝いたしますとともに、お子様の新たな門出に心よりお慶び申し上げます。

本日、晴れて学士の学位を取得された方は366人、修士の学位は98人、博士の学位は7人の方が取得されました。この中には15人の外国人留学生が含まれています。皆さんが学位記を授与されたことは、もちろんご自身の学生生活における努力の賜物と言えますが、ご家族をはじめ友人や研究室の仲間、そして指導教員など、周囲の大きな支援と協力があったからこそ成し得たことでもあります。是非、お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、この経験を今後の人生に活かしていただきたいと思います。

さて、皆さんが本学で学んだ工学は、自然科学を母体とし、基礎科学の進歩と技術の発達を伴い、より豊かな生活を求める人類の欲求が、その発展を長きに渡り支えてきました。しかしながら、昨今では、科学技術への過度な依存が地球環境を破壊し、

自然災害発生トレンドを変え、記憶に新しいところでは昨年9月に発生した北海道胆振東部地震による電力供給システムのブラックアウトのように、自然災害に起因する人災が散見されるようになりました。

これから、工学を学んだ技術者として日本社会の将来を担う皆さんは、これまでに学んだ専門知識だけでなく、広い視野で多角的に物事をとらえ、課題解決に向かう姿勢が重要になるでしょう。

また、今後の日本社会に大きな影響を及ぼすSociety 5.0は、ご存知の通り仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を目指すものです。IoTで全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、今後ますます深刻となることが予想される少子高齢化や地方の過疎化、貧富の格差など、我が国が抱える課題を克服することを目標としています。

近い将来AIの実用化が急速に進み、ビッグデータを活用して必要な情報が必要な時に、より正確に提供されるようになり、産業の在り方までを大きく変えていくものと予想されます。これからは、このようなイノベーションを通じて起こり得る、様々な社会的変革をしっかりと受け止め、臨機応変に対応し、飲み込まれることなく乗り越えていく力が必要となります。

医療技術の発展により、人生100年時代を迎えようとしている今、皆さんは何度もこの荒波を乗り越えていくことになるかもしれません。そのような時こそ、本学で身につけた知識や経験、人間ネットワークを最

大限に活かし、日本社会を正しく先導する技術者として活躍していただきたいと切に願っております。

何かの機会に本学を訪ねていただいた時には、本学もまた、皆さんの予想をはるかに上回る発展を遂げた姿をお見せしたいと思えます。

厳しい寒さも和らぎ、春の訪れを感じる

季節となりました。本日、このように盛大に学位記授与式を挙げていただきましたことに感謝申し上げますとともに、卒業生・修了生の皆様の新たな門出を祝い、今後益々のご活躍を祈念いたしまして学長告辞といたします。

改めまして、学部卒業、大学院修了おめでとうございます。

平成31年3月18日

北見工業大学長 鈴木 聡一郎

## = 入試 =

### 平成 31 年度大学院入学試験（第 2 回）を実施

（入 試 課）

平成 31 年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験（第 2 回）を 2 月 12 日（火）（学力検査）、13 日（水）（面接試験）に実施しました。各専攻の合格者数等は下表のとおりです。

また、平成 31 年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験（第 2 回）を 2 月 12 日（火）（面接試験）に実施しました。各専攻の合格者数等は下表のとおりです。

#### 博士前期課程

専攻名	募集区分		一般入試		ユニバーサル コース入試		外国人留学生 特別入試		高等専門学校 専攻科生特別入試		学部3年次学生 対象入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
機械工学専攻	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会環境工学専攻	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気電子工学専攻	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
情報システム工学専攻	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
バイオ環境化学専攻	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
マテリアル工学専攻	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	10	10	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0

#### 博士後期課程

専攻名	募集区分		一般入試		社会人入試		外国人留学生入試	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
生産基盤工学専攻	0	0	0	0	0	0	1	1
寒冷地・環境・ エネルギー工学専攻	1	1	1	1	0	0	0	0
医療工学専攻	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	1	1	1	1	1	1	1	1

## 平成 31 年度工学部一般入試を実施

(入 試 課)

平成 31 年度工学部一般入試について、1 月 28 日（月）から 2 月 6 日（水）までの願書受付期間内に前期日程 433 人、後期日程 1,655 人の出願がありました。

前期日程は 3 月 6 日（水）に合格者を発表し、後期日程は 3 月 12 日（火）に個別学力検査を行い、20 日（水）に合格者を発表しました。両学科の合格者数等は下表のとおりです。

### 前期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
地球環境工学科	76	229	155
地域未来デザイン工学科	88	204	161
合 計	164	433	316

### 後期日程

学 科 名	募集人員	志願者数	合格者数
地球環境工学科	66	740	124
地域未来デザイン工学科	77	915	130
合 計	143	1,655	254

# = 研究助成 =

## 平成30年度共同研究の受入状況

平成31年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
地域未来デザイン工学科	教授	小西 正朗	クモ糸フィブロインの生産量向上に向けた培地組成の検討に関する研究	Spiber株式会社
地球環境工学科	教授	武山 真弓	エゾシカの利活用および地産地消を目的としたレシピ開発	北見工業大学生活協同組合
地域未来デザイン工学科	准教授	星野 洋平	微酸性電解水を利用したカボチャの貯蔵性に関する研究	デノラ・ペルメレック株式会社
地球環境工学科	准教授	高井 和紀	GPSを用いた車両位置判定アルゴリズムの研究	株式会社ワークム北海道
地球環境工学科	准教授	中村 大	住宅用地における土留め擁壁の凍上被害の解明と対策工の	ミサワホーム北海道株式会社
オホーツク農林水産工学連携研究推進センター	センター長	村田 美樹	ガラスープの品質予測システムの構築	和弘食品株式会社
地域未来デザイン工学科	教授	黒河 賢二	光給電を用いた通信方法に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
地球環境工学科	教授	武山 真弓	ラマン分光法による黒曜石産地同定の確立に向けた研究	遠軽町
地球環境工学科	教授	武山 真弓	生体電気インピーダンス法における装置小型化について	国立大学法人新潟大学
地域未来デザイン工学科	准教授	橋本 泰成	室内温熱環境と睡眠の質に関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
地球環境工学科	准教授	古瀬 裕章	パルス通電方式による光学材料の接合技術の研究	浜松ホトニクス株式会社/ 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構核融合科学研究所
地球環境工学科	准教授	川口 貴之	老朽化した港湾施設における陥没危険箇所抽出方法に関する研究	紋別市/北海設計株式会社

平成30年度 累計118件

## 平成30年度受託研究の受入状況

平成31年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目	委 託 機 関	所要経費
地域未来デザイン工学科	助教	楊 亮亮	(SIP) 生産から流通・消費までのデータ連携により最適化を可能とするスマートフードチェーンの構築	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	円 2,000,000

平成30年度 累計13件

## 平成30年度奨学寄附金の受入状況

平成31年3月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
情報処理センター	センター長	升井 洋志	バスロケーションシステムの研究のため	網走バス株式会社	円 100,000
地域未来デザイン工学科	教授	小西 正朗	工学研究のため	Spiber株式会社	1,500,000
地域未来デザイン工学科	教授	渡邊 康玄	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
	学長	鈴木 聡一郎	教育研究支援のため	サントリービバレッジサービス株式会社	546,863
	学長	鈴木 聡一郎	教育研究支援のため	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	444,331
	学長	鈴木 聡一郎	国立大学法人北見工業大学修学支援基金への寄附	北見工業大学生生活協同組合	500,000
地球環境工学科	教授	山下 聡	札幌市里塚における調査データの提供、技術的アドバイス	株式会社ドーコン	756,000
地球環境工学科	准教授	中村 大	工学研究のため	藤井産業株式会社	1,000,000
地域未来デザイン工学科	准教授	井上 真澄	コンクリートの診断と研究のため	株式会社北杜設計	50,000
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	橋梁マネジメントシステムの研究のため	株式会社北杜設計	50,000
地球環境工学科	准教授	中村 大	工学研究のため	株式会社 ランド・ラボ	100,000
地球環境工学科	准教授	高井 和紀	躯体の掃気に関するシミュレーション解析等	ジェイベック株式会社	150,000
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	橋梁長寿命化修繕計画のための学術研究	益村測量設計株式会社	300,000
地域未来デザイン工学科	准教授	富山 和也	医用工学研究のため	北見医工連携研究会	200,000
地域未来デザイン工学科	准教授	吉川 泰弘	寒冷地河川における河氷水理学研究の奨励として	株式会社福田水文センター	800,000
地域未来デザイン工学科	教授	黒河 賢二	研究テーマ「ファイバビュース抑圧法の研究」への助成	公益財団法人電気通信普及財団	1,290,000
地域未来デザイン工学科	助教	山内 翔	研究テーマ「人に愛されるロボットデザイン」を具体化する自由形状・内骨格ロボット構築手法」への助成	公益財団法人電気通信普及財団	2,450,000
地域未来デザイン工学科	准教授	渡辺 美知子	機械工学の研究	株式会社トリニティ・ドゥ	500,000
地球環境工学科	教授	川村 みどり	平成31年度（第41回）研究助成事業として 研究テーマ「アルミナノレイヤを活用した新規な酸化モリブデン・銀積層Low-E膜の開発」	公益財団法人日本板硝子材料工学助成会	1,000,000
	学長	鈴木 聡一郎	学生に対する支援	北見工業大学後援会	380,269
	学長	鈴木 聡一郎	学生に対する支援	北見工業大学後援会	120,000
地域未来デザイン工学科	准教授	井上 真澄	2019年度研究助成として 研究課題名「AL-Mg溶射鉄筋のコンクリート部材への適用性に関する基礎的研究」	公益財団法人前田記念工学振興財団	1,000,000

平成30年度 累計105件

# = 人事 =

## 人 事 異 動

(総務課)

### ○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
31.3.31	工学部教授	許斐 ナタリー	辞職
〃	工学部准教授	中尾 隆志	定年退職
〃	工学部准教授	三浦 宏一	定年退職
〃	施設課長	松川 朋実	定年退職
〃	情報図書課係長	船木 敦子	定年退職
〃	情報図書課係長	泉 真理恵	辞職
〃	技術部大学運営支援室環境安全支援グループ長	百武 欣二	定年退職
〃	技術部大学運営支援室情報処理支援グループ技術専門職員	熊本 慎也	辞職
〃	総務課長(総務担当)	玉木 衛	辞職(旭川医科大学へ転出)
〃	情報図書課長	吉竹 忍	辞職(旭川医科大学へ転出)
〃	学長企画室係長	八木澤 学	辞職(旭川工業高等専門学校へ転出)
〃	総務課係長	吉本 幸矩	辞職(北海道大学へ転出)
〃	財務課係長	柴田 俊成	辞職(釧路工業高等専門学校へ転出)
〃	出向(釧路工業高等専門学校係長)	早瀬 敦	辞職(釧路工業高等専門学校へ転出)
〃	情報図書課事務職員	牧野 立夜	出向(北海道教育大学)
31.4.1	副学長	渡邊 康玄	国際交流センター長 (任期:平成32年 3月31日まで)
〃	工学部准教授	林田 和宏	機械電気系長 (任期:平成32年 3月31日まで)
〃	工学部教授	早川 博	社会環境系長 (任期:平成32年 3月31日まで)
〃	工学部教授	原田 建治	情報通信系長及び情報システム工学専攻主任 (任期:平成32年 3月31日まで)
〃	工学部教授	村田 美樹	応用化学系長 (任期:平成32年 3月31日まで)
〃	工学部准教授	鳴島 史之	基礎教育系長 (任期:平成32年 3月31日まで)
〃	工学部教授	有田 敏彦	地域国際系長 (任期:平成32年 3月31日まで)

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
31.4.1	工学部准教授	ウラ, シャリフ	工学部機械電気系教授
〃	工学部准教授	林田 和宏	工学部機械電気系教授
〃	工学部准教授	星野 洋平	工学部機械電気系教授
〃	工学部助教	川尻 峻三	工学部社会環境系准教授
〃	工学部助教	崔 希燮	工学部社会環境系准教授
〃	工学部特任助教	アシャリフ ファラマルズ	工学部機械電気系助教
〃	工学部特任助教	羽二生 稔大	工学部機械電気系助教
〃	工学部特任助教	ラワンカル アビジート	工学部機械電気系助教
〃	工学部特任助教	佐藤 和敏	工学部社会環境系助教
〃	工学部特任助教	澁谷 隆俊	工学部情報通信系助教
〃	工学部特任助教	ショウ シュン	工学部情報通信系助教
〃	工学部特任助教	近藤 寛子	工学部応用化学系助教
〃	工学部特任助教	ウ アテイ	工学部地域国際系助教
〃	(新規採用)	(ばば ともゆき) 馬場 智之	工学部情報通信系助教
〃	苫小牧工業高等専門学校総務課長	(いのうえ よしひこ) 井上 義彦	総務課長（総務担当）
〃	室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室長	(かじわら しげとし) 梶原 茂寿	情報図書課長（係長兼務）
〃	施設課副課長	谷口 秀俊	施設課長
〃	財務課係長	森本 典宏	財務課副課長（係長兼務）
〃	施設課係長	尾崎 直	施設課副課長（係長兼務）
〃	総務課係長	三宮 智仁	学長企画室係長
〃	総務課専門職員	中村 圭吾	総務課係長
〃	研究協力課係長	小松 加寿美	総務課係長
〃	出向（釧路工業高等専門学校総務課 調達係長）	工藤 圭輔	財務課係長（出向からの復帰）
〃	施設課主任	上妻 武広	施設課専門職員
〃	学務課係長	森原 早紀	研究協力課係長
〃	北海道大学附属図書館利用支援課北図書館 担当事務職員	(くりた ともこ) 栗田 とも子	情報図書課係長

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
31.4.1	総務課事務職員	笠川 勇将	総務課主任
〃	学務課事務職員	中山 智香子	研究協力課主任
〃	北海道教育大学釧路校室（財務グループ） 一般職員	（やまもと まりえ） 山本 真理恵	学務課主任
〃	学務課学生支援室事務職員	八田 この実	情報図書課事務職員
〃	（新規採用）	（にしの ちえり） 西野 智恵里	学務課学生支援室事務職員
〃	技術部大学運営支援室室長	中西 喜美雄	技術部副部長
〃	技術部学部・大学院支援室室長	山根 美佐雄	技術部高度専門職（機器分析支援担当）
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ長	大森 誠一	技術部大学運営支援グループ長
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり 支援グループ長	杉野 豪	技術部教育研究支援グループ長
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析 支援グループ長	橋本 晴美	技術部教育研究支援グループ技術専門員
〃	技術部大学運営支援室技術専門員	森脇 幸伸	技術部大学運営支援グループ技術専門員
〃	技術部学部・大学院支援室技術専門員	堂田 誠治	技術部教育研究支援グループ技術専門員
〃	技術部学部・大学院支援室技術専門員	布川 裕	技術部教育研究支援グループ技術専門員
〃	技術部学部・大学院支援室技術専門員	信山 直紀	技術部教育研究支援グループ技術専門員
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ情報処理係長	松本 正之	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ機器運用係長	宇野 珠実	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ開発運用係長	奥山 圭一	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ技術専門職員	折原 淳	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ技術専門職員	宿院 信博	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室情報処理 支援グループ技術専門職員	常田 妃登美	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室環境安全 支援グループ安全衛生係長	三橋 恵治	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部大学運営支援室環境安全 支援グループ作業環境測定係長	須澤 啓一	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり 支援グループ工作技術支援係長	長谷川 稔	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり 支援グループ機械工作技術係長	山田 忠永	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室ものづくり 支援グループ技術専門職員	佐藤 敏則	技術部教育研究支援グループ技術専門職員

発令年月日	現職名	氏名	新職名（発令事項）
31.4.1	技術部学部・大学院支援室ものづくり支援グループ技術専門職員	石澤 真也	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ機器分析係長	徳田 奨	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ機器システム係長	山田 洋文	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ計測システム係長	白川 和哉	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	技術部学部・大学院支援室機器分析支援グループ技術専門職員	坪田 豊	技術部教育研究支援グループ技術専門職員
〃	(新規採用)	(ふじさわ かずと) 藤澤 一人	技術部大学運営支援グループ技術専門職員
〃	(新規採用)	(いしばし れい) 石橋 怜	技術部大学運営支援グループ技術職員

## = 受賞 =

### 本学学生が化学系学協会北海道支部 2019 年冬季研究発表会で優秀講演賞を受賞

(バイオ環境化学専攻)

(バイオ環境化学科)

1月22日(火)～23日(水)、札幌で開催された化学系学協会北海道支部 2019 年冬季研究発表会において、本学大学院生の駒井しおりさん(バイオ環境化学専攻1年)が優秀講演賞(口頭部門)を、本学学生の古仲雄亮さん(バイオ環境化学科4年)が優秀講演賞(ポスター部門)をそれぞれ受賞しました。

本研究発表会は、日本化学会・石油学会・触媒学会・電気化学会・表面技術協会・腐食防食学会・日本分析化学会の各北海道支部が共催して行っている大規模な支部研究発表会であり、優秀講演賞はそれぞれ卓越

した口頭発表およびポスター発表を行った学生に贈られるものです。

駒井さんの講演題目は「スラリー埋没加熱処理による Sr 含有アパタイト被膜の作製とその生体適合性評価」で、102 件の口頭発表の中から選ばれた9件のうちのひとつです。古仲さんの講演題目は「簡便な表面処理を用いた ZrO<sub>2</sub> インプラントの生体活性向上」で、76 件のポスター発表の中から選ばれた3件のうちのひとつであり、ともに大津直史教授の指導のもとで行った、整形外科並びに歯科用生体活性医療材料の新規開発に関する研究成果です。



受賞した駒井さん(右)と古仲さん(左)

## 本学大学院生が化学系学協会北海道支部 2019年冬季研究発表会で優秀講演賞を受賞

(マテリアル工学専攻)

1月22日(火)～23日(水)、札幌で開催された化学系学協会北海道支部2019年冬季研究発表会において、本学大学院生の谷友里江さん(マテリアル工学専攻1年)が優秀講演賞(口頭部門)を受賞しました。

本研究発表会は、日本化学会・石油学会・触媒学会・電気化学会・表面技術協会・腐食防食学会・日本分析化学会の各北海道支部が共催して行っている大規模な支部研究発表会であり、優秀講演賞は卓越した口頭発表およびポスター発表を行った学生に贈

られるものです。

谷さんの講演題目は「精密農業支援のための化学分析と施肥実証試験」で、102件の口頭発表の中から選ばれた9件のうちの一つです。これは、本学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターのプロジェクトとして取り組んでいる研究成果の一つで、オホーツク管内農協、農場所有者の方の協力のもとに、宇都正幸准教授の指導で行われたものです。



受賞した谷さん

## 地域未来デザイン工学科 澁谷隆俊特任助教が 日本天文学会研究奨励賞を受賞

(地域未来デザイン工学科)

この度、地域未来デザイン工学科の澁谷隆俊特任助教が、2018年度日本天文学会研究奨励賞を受賞しました。

本賞は優れた研究成果を挙げている35歳以下の若手天文学者に授与されるもので、今回、受賞対象となった研究は「大規模観測データを用いた高赤方偏移銀河の統計的

研究」です。

授賞式及び受賞記念講演は、2019年3月に法政大学で開催された「日本天文学会2019年 春季年会」会期中に行われ、受賞者には、賞状、賞牌（メダル）及び賞金が授与されました。

『受賞理由 詳細』

リンク：[http://www.asj.or.jp/asj/prize/reason/shourei2018\\_shibuya\\_reason.pdf](http://www.asj.or.jp/asj/prize/reason/shourei2018_shibuya_reason.pdf)



受賞した澁谷特任助教（左）



受賞記念講演の様子

## 技術部 山根美佐雄室長が日本金属学会 第 50 回研究技術功労賞を受賞

(技 術 部)

日本金属学会 2019 年春季(164 回) 講演会が東京電機大学で開催され、技術部 山根美佐雄室長が、第 50 回研究技術功労賞を受賞しました。

本賞は、多年にわたり卓越した技術により研究に欠くことのできない装置の作製、試料調整、測定および分析を通じて研究者の研究成果に貢献した「かげの功労者」に対して贈られる賞です。山根室長は、本学に採用以来 36 年にわたり、高真空装置による薄膜作製、表面処理、表面分析などの研究支援業務に一貫して従事し、高い真空技

術と豊富な分析経験を駆使して、研究支援に尽力してきました。例として、自作プラズマ表面処理装置による高品質窒化被膜形成への貢献や、X 線光電子分光装置 (XPS)、オージェ電子分光装置 (AES)、X 線回折装置 (XRD)、蛍光 X 線分析装置 (XRF) などの表面分析装置の維持管理および教員、学生への分析指導、他機関からの依頼分析への対応が挙げられます。

創意工夫を重ねた技術支援やこれらの実務が、日本金属学会において評価され、受賞に至りました。



贈呈式



研究技術功労賞

## 慶尚大学校工科大学（韓国）との短期交流研修を実施

（国際交流センター）

2月12日（火）から16日（土）まで5日間、本学の協定校である韓国晋州市の慶尚大学校工科大学の一行15人を招聘して短期交流研修を実施しました。この研修は両大学の相互理解と友好を深めるために1999年から隔年でお互いの大学を訪問する形で実施しています。今年度は冬期間を利用して、慶尚大学校の学生10人と5人の引率者が北見を訪れました。

研修1日目は午後には到着したため、夕方から、市内のホテルで開講式及び歓迎会を開催しました。歓迎会では日本語で一生懸命に自己紹介をしながら本学学生との交流を行っていました。また、滞在期間中に行う研修プログラムを楽しみにしている様子でした。歓迎会には本学の韓国人教員や、前年度、慶尚大学校工科大学へ研修に参加した日本人学生も加わったことで和やかな雰囲気となりました。

2日目、午前には地域国際系の鈴木衛講師による「日本語基礎・日本文化」の講義を受講した後に、講堂において自己紹介を簡単な日本語で発表しました。その後は授業をサポートしていた日本人学生及び韓国からの留学生たちと一緒に学食で昼食をとりました。

午後からは、許斐ナタリー国際交流センター長から本学の紹介と、本学の研究に理解を深めてもらうために学内施設を見学しました。学内共有施設見学の後、メタンハイドレート研究や機械系分野の3Dプリンター、ディーゼルエンジンの研究室を訪問し、担当教員から研究の説明を受けました。

3日目、研修旅行として、午前は北海道立

北方民族博物館で民族の歴史について学習し、オホーツク流氷館ではマイナス15℃の室内で流氷を体感したり、流氷幻想シアターでオホーツク海の四季について学習しました。

午後からは、流氷ツアーとして流氷観光砕氷船「オーロラ号」に乗船し、1時間程度のクルーズを満喫しました。流氷は順調に網走港付近まで接岸していたので、参加者は初めて見る流氷の景色に興奮していました。

4日目、午前には韓国の晋州市と姉妹都市である北見市を訪問し、渡部眞一副市長及び市の関係者と懇談しました。北見市担当者から一人ずつ紹介されると、覚えてたの日本語で簡単な挨拶をしました。その後、北見市の観光情報やスポーツの話題などで盛り上がりました。続いて、北見市内の文化施設見学としてハッカ記念館を訪問し、蒸留やアロマクリーム作りを体験しました。持ち帰ったオリジナルのアロマクリームは誰の手に渡ったのでしょうか？

午後からは、ノーザンアークリゾートに移動しスキー研修を行いました。参加者のうちスキー経験者は半数位だったので、インストラクターをお願いして研修を始めたところ、アッという間に全員が上手に滑ることができるようになりました。運動神経の良さに驚きました。

夕方からは、北見市内の焼肉店に移動し短期交流研修の修了式及び送別会を行いました。両大学の教職員・学生たちは大いに盛り上がり、別れを惜しむほど交流を図ることができました。

このように短期交流研修を通じて、日本と韓国の両国間が交友を深められることを大変うれしく感じています。言葉や文化の違いがありながらも一緒の時間を共有し、ふれあうことにより、お互いの理解が深められたことを改めて感じ、今後もこの国際交流を継続していきたいと思います。

最後になりましたが、本学を訪問してくれました慶尚大学校工科大学の皆さま、ご協力いただいた本学関係者の皆さま、この研修を支えてくださった多くの皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。カムサハムニダ(どうもありがとうございました)。



短期交流研修の開講式及び歓迎会



自己紹介を日本語でプレゼン



学内の研究室を視察



北見市を訪問



スキー研修を体験

## 社会貢献プログラムを実施

(研究協力課)

2月16日（土）、斜里町公民館ゆめホール知床の小学生向け講座「ゆめクラブ」からの依頼を受け、社会貢献プログラムの一環として、本学から地球環境工学科の白川龍生准教授が講師として、補助学生1人とともに同講座へ派遣されました。

今回の実施テーマは「雪と氷のサイエンス」で、小学1～6年生、計21人が参加しました。

白川准教授による授業では、3種類の実験（ペットボトルの雲実験、ドライアイスの作成、人工雪結晶生成実験）と、3つの体験学習（アイロンビーズによる雪結晶アクセサリ作り、野外での積雪粒子の観察、スノータワー遊び）が行われました。ペットボトルの雲実験では、雲ができる条件を皆で考えながら進めました。液化炭酸ガスを

用い、参加者の目の前でドライアイスを作る実験では、約1分でドライアイスが出来上がる様子に子供たちから歓声が上がりました。そのドライアイスを使った人工雪生成実験では大きな雪結晶が出来上がり、熱心に観察する姿が見られました。

また雪結晶のアクセサリ作りと積雪粒子の観察では、本学学生も主体的に参加者と関わりながら体験学習を進めることができ、大変貴重な経験になったようです。スノータワー遊びは、雪質の特徴を考えながら、制限時間内に如何に高く雪を積み上げられるかを競うもので、子供たちは歓声を上げながら雪遊びに熱中していました。

当日お世話になりました斜里町公民館の皆さま並びに関係各位にお礼申し上げます。



参加者に囲まれる白川准教授



スノータワー遊びに熱中する参加者

## 第34回北方圏国際シンポジウムに参加

(国際交流センター)

2月17日(日)、18日(月)の2日間、紋別市で開催された第34回北方圏国際シンポジウムに招待され、本学留学生7人が参加しました。

この事業には毎年、本学留学生が招待されており、国内外の多くの人と交流を行っています。今年度は17日午後の開会式に出席し、夕方からの記念レセプションで、本学留学生たちが、太極拳、ダンス、母国語での歌、ギター演奏等を披露しました。最後は全員で「紋別の歌」を披露し、紋別市長や市民の方も一緒にステージで合唱する等、大変盛り上がりました。

本学留学生の他、東京農業大学オホーツ

クキャンパスの学生たちはよさこいソーラン踊りを披露し、その後、本学留学生たちと交流を行いました。18日午前、基調講演や特別講演に出席し、英語による発表に耳を傾けました。午後からは、流水科学センター、アザラシランド、海洋交流館、オホーツクタワーを見学し、ガリンコ号Ⅱに乗船、1時間ほどのクルーズを体験しました。

この2日間の研修で、学生たちは大変貴重な体験をしたと思います。

ご支援に改めて感謝するとともに、今後とも是非、参加協力できるよう留学生たちに伝えていきたいと思っています。



グリーンランドの猟師 大島トク氏の講演



「紋別の歌」をみんなで合唱



ガリンコ号Ⅱから流水を展望



流水科学センターで研修

## 平成 30 年度就職イベントを開催

(学務課)

2月21日（木）、本学第二体育館で、オホーツク商工会議所協議会、北見市大卒者情報センター、KITげんき会、そして本学との共催により「オホーツク合同企業セミナー」を開催しました。本セミナーには北見市を含む近隣6市町の企業46社、本学学生及び道内の大学・専門学校等から約60人が参加し、企業担当者の話に熱心に耳を傾けていました。

また、2月22日（金）から27日（水）までの日曜日を除く5日間、本学講義室において「合同企業研究会」を開催しました。本研究会は、午前・午後のそれぞれ冒頭に実施される全体説明会で、各企業が自社をPRするプレゼンテーションを行った後、各講義室で1社あたり3回の研究会を行い、学生が1

日最大6社を受講する形式で実施しました。お昼には情報交換会が開かれ、企業担当者、就職担当教員、学生等が参加し、就職に関する様々な話が交わされました。

5日間の参加企業数は計179社で、参加学生数は延べ3,088人となりました。立て続けに開催したイベントにより、参加学生には疲れの色も見られましたが、全国の企業との出逢いを求めて積極的に担当者と交流する姿が見られ、「業種について幅広く知れた」、「志望したいと思える企業を見つけられた」との声もあり、3月の就職活動解禁に向け満足感のあるイベントになったようです。また、大学としても学生の就職活動を支援するため、次年度に向けてさらに実施方法などを検討していく予定です。



オホーツク合同企業セミナーの様子



合同企業研究会(企業プレゼン)の様子



合同企業研究会(研究会)の様子



合同企業研究会(情報交換会)の様子

## 北見市教育委員会「土曜学校」事業への協力

(研究協力課)

2月23日（土）、東相内小学校を会場として北見市教育委員会が主催する「土曜学校」事業が実施され、本学から有田敏彦教授、岡崎文保准教授、酒井大輔助教がこの事業に協力し、科学実験やものづくりを体験するブースを出展しました。

「科学であそぼう！！おもしろ科学実験教室」と題して実施されたこの事業では『振動発電機を作ろう』、『スライムを作ろう』、『リサイクルホバークラフトを作ろう』、『極低温を体験しよう』、『いろんな電気にふれてみよう』という5つのブースがあり、

27人の参加児童はそれぞれのブースにおいて本学学生の指導のもと、科学実験やものづくり体験を行いました。

ほぼ全ての参加者は、順番に全てのブースを巡った様子で、各ブースからは絶えず歓声が上がるなど大盛況のうちに終了となりました。

本学はこうした活動を通じて、子どもたちの科学に対する興味や好奇心を喚起するとともに、地域への貢献を継続していきたいと考えています。



液体窒素でアイスを作る様子



静電気を溜める実験

## メンタルヘルス研修を実施

(総務課)

2月25日(月)、メンタルヘルス研修を実施し、教職員約65人が参加しました。

本研修は、メンタルヘルスに関する理解を深めるとともに、自分のストレス耐性を高め、日ごろの注意点・対策方法を習得するなど、健全な労働環境を確保することを目的として実施しました。

講師として、株式会社インソースの有田恵氏から、メンタルヘルスの現状やストレスの要因や影響、職場でのコミュニケーション等について研修していただきました。参加した教職員は熱心に聴き入りながら、メンタルヘルスに対する認識と対処法への理解を深めていました。



講演する有田氏



研修時の様子

## 個人情報保護研修を実施

(総務課)

3月1日(金)、個人情報保護研修を実施し、教職員約60人が参加しました。

本研修は、個人情報の取り扱いについて理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図るために毎年開催しております。講師として、株式会社インソースの池内

直人氏に企業や大学の個人情報流出事例、標的型攻撃メールへの取り扱い方法、個人情報保護の対応策等について研修していただきました。参加した教職員は熱心に聴き入りながら、個人情報保護に関する知識を深めていました。



講演する池内氏



研修の様子

## 学生表彰式を挙行

(学 務 課)

3月6日(水)、成績優秀学生、学長賞及びミント賞の受賞者に対する、平成30年度学生表彰式をコミュニケーションアトリウムにおいて行いました。

今年度、学長賞の該当者はありませんでしたが、成績優秀学生は優秀な成績を収めた学生12人、ミント賞は学会等から表彰を

受けた学生や、障がい学生支援に貢献した学生16人と1団体が表彰されました。

鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、表彰状並びに記念品の贈呈が行われ、お祝いの言葉と、これから歩む新しい生活への激励の言葉が述べられました。



学生表彰式の様子



記念写真

## 成績優秀学生

氏名等	所属学科・専攻
田中 拓也	機械工学科
松田 朋也	社会環境工学科
小野 亨太郎	電気電子工学科
成中 真愛	情報システム工学科
立花 成我	バイオ環境化学科
伊藤 有澄	マテリアル工学科
高橋 敏明	機械工学専攻
佐々木 優太	社会環境工学専攻
多田 稀美子	電気電子工学専攻
本間 佑涼	情報システム工学専攻
大岩 真子	バイオ環境化学専攻
横岩 佑城	マテリアル工学専攻

## ミント賞

氏名等	所属学科・専攻
大田 康平	地域未来デザイン工学科
木下 佳月	社会環境工学科
杉森 笑海	社会環境工学科
坂本 政隆	社会環境工学科
半田 智久	情報システム工学科
近藤 一輝	機械工学専攻
鈴木 紗苗	社会環境工学専攻
松田 純平	社会環境工学専攻
大谷 匠	社会環境工学専攻
鎌田 啓市	社会環境工学専攻
岸川 鉄啓	社会環境工学専攻
佐々木 優太	社会環境工学専攻
菊野 亮人	電気電子工学専攻
佐々木 優弥	情報システム工学専攻
大岩 真子	バイオ環境化学専攻
丸山 堯弘	マテリアル工学専攻
レイノルズ	—

## 事務職員のための講演会を実施

(総務課)

3月8日(金)、平成30年度事務職員のための講演会を開催し、業務の都合によりやむを得ず欠席となった職員を除く全ての事務職員が参加しました。

この講演会は、事務職員の資質向上を目的とした研修の一環として従来から開催しており、外部講師による国立大学事務職員として求められる知識・感覚・能力等についての講演等を通じて、事務職員としての自覚を促し、更に業務及び業務見直しへの一助とすることを目的に実施しています。

今年度は講師として、名古屋大学産学官連携監の加藤滋氏をお招きし、「名古屋大学における本格的産学連携に向けた取組」、

「大学職員としてのキャリアパスに関する考察」と題した講演が行われました。

加藤氏は講演の中で、名古屋大学における産学連携の制度や取り組み、大学職員としての役割等について説明され、実例やこれまでの経験を交えながら「自分にとってやり甲斐のある仕事とは何か」、「誰のために何のために仕事をするのか」を心掛けてほしいとの激励がありました。

今回の講演会は、参加した職員一人一人が、積極的に意識改革に取り組む必要があることを改めて強く自覚する貴重な機会となりました。



講演する加藤連携監



受講者の様子

## オホーツク医学大会・北見医工連賞授賞式

(社会連携推進センター)

3月9日(土)、北見医師会・北見医工連携研究会が主催する、第12回オホーツク医学大会がホテル黒部を会場に開催されました。北見医工連携研究会は、北見医師会と本学が中心となって立ち上げた研究会です。毎年開催される「オホーツク医学大会」に、本学は後援機関として参画しています。

今年の大会では特別講演として、本学保健管理センター長 奥村貴史教授が「オホーツク圏における医療人工知能研究の現状と展望」をテーマに講演しました。また、研究発表では10件の発表があり、本学からは大学院バイオ環境化学専攻食品科学研究室(指導教員 佐藤利次准教授)から「シイタケにおけるデュアルプロモーター型 RNAi ベクターの解析と *exp1* 遺伝子発現抑制株の造成(発表 大畑早弥香さん)」、「食用担子菌醗酵ダイズのポリフェノール成分の解析(発表 福士涼介さん)」

と、情報システム工学科医療情報・医用画像工学研究室(指導教員 早川吉彦准教授)から「スマートフォン・バイブレーションによる自動車運転支援アプリケーション開発(発表 江口直弥さん)」、「測距カメラ・センサ(Intel RealSense)を用いた全身の動きのトラッキング(発表 高田久功さん)」の計4件の発表がありました。

研究発表に続き、若手研究者の医療工学研究の発展を目的に設けられた北見医工連賞の授賞式が行われました。今年度は、本学地域未来デザイン工学科の富山和也准教授が受賞し、受賞研究である「生理心理学に基づく潜在疲労と認知的注意を融合した路面評価モデルの開発」について講演しました。

オホーツク医学大会は、本学からの多くの研究発表の場として、また地域への情報発信の場としての活用が期待されます。



特別講演 保健管理センター長 奥村教授



受賞講演 富山准教授

## 平成 30 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業修了式

(社会連携推進センター)

3月13日(水)、社会連携推進センターが中心となって行っている人材育成事業、工学連携推進型地域6次産業人材育成事業(旧「新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン」)の修了式が行われました。

本事業は、平成18年度から22年度まで、科学技術振興調整費「地域再生人材創出拠点の形成」事業として取り組みを開始し、その後、北見市やオホーツク総合振興局からの支援をいただきながら継続しています。現在は北見市からご協力をいただきながら、「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」として実施しています。

本事業では、第一次産業製品の工業化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードにした新規作物の作付けから、商品開発・事業化までの知識とスキルを有す

る「工学的農業クリエイター」の創出を目指しています。

今年度の修了生は本学学生の2人で、谷江翔太郎さん(電気電子工学科)は「地域食材を生かした菓子類商品開発の試み」、山本凌太さん(バイオ環境化学科)は「チョコリコーヒの酸化ストレス抑制効果」に取り組みました。

修了生からは「菓子作りで大切な事を学ぶことができた」、「人前で発表をする機会があまり無いので、成果報告会での発表はいい経験になった」との感想がありました。

本事業は、本学が昨年7月に設置したオホーツク農林水産工学連携研究推進センターと連携しながら、今後も引き続き修了生のフォローアップや、人材育成を展開していく予定です。



「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」修了式の様子

## 地域講演会「雪と氷のサイエンス」を実施

(地球環境工学科)

3月23日(土)、空知管内秩父別町にて、日本雪氷学会北海道支部主催の地域講演会「雪と氷のサイエンス」が開催されました。当日は本学地球環境工学科の白川龍生准教授が講師を担当し、前半は雪氷おもしろ実験とビーズアクセサリ作り、後半は秩父別町で毎年2月下旬に実施している積雪調査の報告が行われました。

前半は4種類の雪氷おもしろ実験(ペットボトルの雲実験、ドライアイスの作成、人工雪結晶生成実験および余ったドライアイスを使った物理実験)と、アイロンビーズによる雪結晶アクセサリ作りが行われました。実験のうち3種類は、12月に大空町、2月に斜里町で実施したものと同じですが、今回はドライアイスを使い霧状の水滴を発生させる実験や、ドライアイスの塊を滑らせる等速直線運動の実験を新たに加えました。

雪結晶のアクセサリ作りでは、実際に北海道で観察された雪結晶の写真を参考に、参加者自身がビーズを並べ、個性的なアク

セサリーが完成しました。特に、そのビーズ作品がどのタイプの雪結晶を表現したのかを知ることが重要であるため、参加者の皆さんには、会場に持参した図鑑や書籍を使って自ら調べていただきました。樹枝六花や角板をイメージしたものが多かったのですが、中には三花などのレアな形をデザインする方もいました。

後半は白川准教授が2014年から毎年続けている北海道内の広域積雪調査の報告会で、特に観測地の一つである秩父別町でのエピソードが紹介されました。空知北部が北海道有数の豪雪地帯に位置し、積雪深・積雪水量とも高い値を示していることについて、現地の写真と断面図を使った解説がありました。また融雪出水直前期の積雪水量を説明するモデル実験を行い、参加者の皆さんに雪の重さを体感していただきました。

当日は吹雪で交通機関が乱れる中、小学生5人を含む13人の方にご参加いただきました。現地でお世話になりました秩父別町教育委員会の関係各位にお礼申し上げます。



ビーズアクセサリの作成



ドライアイスを使った実験の様子

## = 日誌 =

### 2 月

- 1日 就職ガイダンス
- 3日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 8日 入学者選抜委員会
- 12日 広報誌編集委員会、大学院博士前期課程入学試験<学力>（第2回募集）、大学院博士後期課程入学試験<面接>（第2回募集）
- 13日 教育研究評議会、役員会、大学院博士前期課程入学試験<面接>（第2回募集）
- 14日 発明審査委員会
- 15日 入学試験実施委員会、入学者選抜委員会
- 19日 教務委員会、平成29年度入学者への研究室配属に向けた授業選択ガイダンス、入学者選抜委員会
- 20日 私費外国人留学生入学試験合格発表、大学院入学試験（第2回）合格発表
- 21日 オホーツク合同企業セミナー
- 22日 地域連携・国際交流委員会、学生委員会、合同企業説明会（～27日）
- 26日 役員会、入学者選抜委員会
- 28日 入学者選抜委員会

### 3 月

- 1日 編入学入学手続（～8日）、大学院入学手続（～8日）
- 2日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 教務委員会、入学者選抜委員会
- 6日 教授会、研究科委員会、学生表彰式、一般入試（前期日程）合格発表、社会連携推進センター運営会議
- 7日 一般入試（前期日程）入学手続（～15日）、私費外国人留学生入学手続（～15日）
- 9日 オホーツク医学大会
- 12日 一般入試（後期日程）個別学力検査
- 13日 教育研究評議会、平成30年度工学連携推進型地域6次産業人材育成事業修了式
- 14日 発明審査委員会
- 15日 教務委員会
- 18日 学位記授与式、入学者選抜委員会
- 19日 教授会、施設環境委員会、入学者選抜委員会
- 20日 経営協議会、役員会、一般入試（後期日程）合格発表
- 21日 一般入試（後期日程）入学手続（～27日）
- 27日 研究支援室会議